

令和5年11月11日 SDGs中学生議会 質問・答弁記録

【第4地区】

<質問・提案>

中学生議員（1人目）

すべての人が交流できる場について、私は区のホームページや広報などがわ等を見て、多彩な催し物があることを知りました。

最近では、5年ぶりとなる「江戸川区民まつり」等の大きなイベントがたくさん復活しました。地域の方々の熱気を感じることができ、交流は区の発展にも繋がると考えています。

現在、区内にある交流の場としては、なごみの家という施設があります。そこでは、年齢、障害の有無にかかわらず、気軽に交流できる地域拠点となっています。

しかし、入口の狭さ等から全ての人々が利用するには少し厳しいと思います。そのため、交流できる場として、大規模な公園を小岩地区にも設置するのが良いと考えました。

現在、江戸川区には、公園面積が233万8901.10平方メートルと、東京23区内で1番の広さです。しかし、特に私の住む小岩地区では、多人数が利用できる大規模な公園がないため、各年代の人が積極的に利用できるような場を増やしてほしいと思います。例えば、高齢者や障害者も利用できるようにスロープや手すり、点字ブロック等をつけて、安全面を確保すれば、SDGs目標の1つ「住み続けられるまちづくりを」が達成できるとともに、子どもから大人まで楽しめるような、広々としたスペースを確保すれば、交流しやすい場が生まれると考えています。

現在、再開発が色々な場所で進んでいますが、今後、区民が気軽に集まれるような公園を設けることはできるでしょうか。

中学生議員（2人目）

私の中学校には、小岩公園という中学校とほぼ同じ広さの大きな公園が隣接しています。今、その小岩公園のリニューアルに伴うワークショップが定期的開催され、近隣の小学生からお年寄りまで幅広い年代で集まり、私も参加しています。

そこで、このような意見が出ています。お年寄りの方々からは「子ども達が遊んでいる姿を見るのが好き」。子ども達からは「お年寄りの方々とお話してみたいが、話しかけづらい」との意見です。

また「車椅子を気軽に使用できる場にしてほしい」「障害のある方々とも交流したい」との意見もありました。私は、これらの意見を聞き、幅広い年代の方々が暮らしやすいまちにするためには、交流の場が必要であると考えました。

では、どのような交流の場が望ましいのか。まず、子ども達が全力で体を動かせる場であり、高齢者の方々にとっては、のんびりと子ども達を見守ることができる場所、また、車椅子の方や障害のある方も安全に利用できる場所です。このためには、子ども達が遊べる遊具

やゲームが備わっていて、エレベーターや点字ブロック、十分な道幅が確保されていることが望ましいです。

そして、みんなが利用しやすい場所、私は一番に公園が思い浮かびます。公園に屋外、屋内一体型で、子どもからお年寄りまで、様々な年代の人同士が笑いあったり、情報の交換をしたり、交流できる場があったらとても素敵なことだと思います。

このような施設を設置することは可能でしょうか。

中学生議員（3人目）

皆さんは、地域の人々と関わっていますか。

私は交流することで、コミュニケーションを通して、お互いの価値感や考えを知り、信頼関係を築いていくことができると思います。

ですが、最近では、コロナ禍ということもあり、幅広い世代の人や障害がある人との、交流が減ってきているように感じます。江戸川区は地域共生社会を目指しています。地域共生社会とは、様々な人が分野や属性の壁を越えて繋がり、誰もが支え合う地域をつくっていくことです。私は、子どもから大人まで、障害があるなしにかかわらず、交流できる場所を増やすことが、地域の発展に繋がると考えました。

では、どのようにすれば交流する機会を増やせるでしょうか。私が小学生の頃は、コミュニティセンターという屋内広場によく遊びに行っていました。そんなコミュニティセンターでは、お年寄りの方が子ども達に裁縫を教えたり、紙芝居を読んだりするイベントがありましたが、通路が狭く、車椅子が通らないことや、部屋の面積の関係で人数制限があり、参加したくても参加できない人がいるという問題がありました。皆さんが気軽に来られて、色々な人が交流できるようにするため、屋内広場の面積を増やしてほしいと思います。

更に、皆さんが交流できるように工夫をする必要があります。例えば、車椅子を利用している人のためのスロープや多機能トイレの設置、視覚障害者のための点字ブロック等の設置をするような取り組みをしていただくと幸いです。

皆さんが屋内広場に気軽に来ることができる、広々としたスペースを確保できるような屋内広場を設置することはできますでしょうか。

中学生議員（4人目）

最近、自転車のあり方が社会的に問題となっています。違法駐輪、盗難、人身事故等、身近なところでも様々な問題を感じることができるのではないのでしょうか。

その一方で、自転車は便利な道具でもあります。自動車と違い、移動時に二酸化炭素を排出しないという、環境へのメリットもあります。特に、電動自転車の普及により、お年寄りの方でも気軽に使えて、自動車に代わる移動手段となるのです。こうしたことから、自転車

の問題を解決しつつ、より便利に活用することが求められています。

その解決方法として、シェアサイクルの活用を提案したいと思います。ニューヨークやロンドンでは、シェアサイクルによって渋滞解消、移動時間の短縮等、SDGsの11、12、13項目からも良い効果が見られます。日本でもシェアサイクルを広く知ってもらい、利用できる場所を増やすと同時に、自転車の利用マナーを正しく学ぶこと、これらがSDGsの実現に重要だと考えられます。

現状、シェアサイクルはコンビニエンスストア等で部分的に運営されているだけで、あまり知られておらず利用者も少ないと思います。

江戸川区が率先して、駅等にシェアサイクルを設置してみてもいいでしょうか。

中学生議員（5人目）

SDGsのゴールの中に、「住み続けられるまちづくりを」という目標があります。私は、この目標について、駐輪場が少ないため、違法駐輪が多いという課題があると考えます。道に違法駐輪が多いと外観が悪く、災害時等に避難をする際の妨げになってしまいます。

また、違法駐輪は持ち主が取りに来ないと処分されてしまうので、ごみが増え環境にも悪いです。

調べたところ、令和3年の都内の放置自転車の数は約1.9万台でした。過去に比べ減ってはいますがまだまだ多いです。

乗降者数が、区内で多い駅、小岩駅、葛西駅、西葛西駅周辺のそれぞれの駐輪場を地図で調べてみると、私がいつも使っている小岩駅周辺の駐輪場は、駅からすぐ近くと言えそうな駐輪場は約6個しかありませんでした。

また、葛西駅では、約6個、西葛西駅周辺では約4個でした。駅の利用者がすごく多いのに少ないと感じました。

しかし、新しい駐輪場をつくる土地がほとんどないと聞きました。ですので、駅の周りに新しく建物をつくる際には、駐輪場をつけると決めてはどうでしょうか。

また、調べている時に、知らなかった駐輪場がほとんどで、駐輪場の場所をもっと周知すべきだと思いました。

ですから、駐輪場の場所をアプリの地図等にしたり、駅の近くに掲示したりするのはどうでしょうか。

中学生議員（6人目）

私が公園で遊んだり、登下校中によく見かけるのは、落ちているごみです。コンビニ付近や飲食店の目の前でよく見かけます。大体のコンビニには、店内にごみ箱が設置してあると思います。

ごみがあれば家に帰って捨てたり、近くのごみ箱に捨てればよいと思います。ですが、街中にごみが落ちている、いわゆるポイ捨てをする人が絶えないのはなぜでしょうか。私は、ポイ捨ては良くないことなので、非常に悲しいですし、それを見た小学生等がポイ捨ては正しいと勘違いしかねないです。

このような状況を変えるために、このような機会にポイ捨てをする人を1人でも減らし、綺麗な江戸川区になればよいと思っています。ですが、江戸川区は東京23区の中で、ポイ捨てが多い区1位です。1位と聞いて驚いた方もいるに違いありません。驚いて終わりではなく、この1位という現状を変えなければなりません。

私は中学校までほぼ一本道なのですが、朝練等で朝早く家を出るときに、外に出してあるごみを、漁るカラスがたくさんいました。

もちろん、青いネットで覆われていますが、カラスは、賢い動物なので、くちばし等でつついて、ごみを漁ります。カラスがつつくので道にはカラスがつついたごみが落ちていたりします。

またカラスがいたので、そこを通るのが怖かったです。

ポイ捨てとは少し離れますが、動物がごみを漁る場合もあります。この時に、ごみは青いネットでかぶせるのではなく、ネット以外のもの、例えばどこかにごみを入れる倉庫をつくり、そこに人々が家庭ごみを入れれば、動物も漁りに来ません。

東京23区の中で、ポイ捨てが多い区1位という現状を変えるために、区内にごみ箱を所々に設置したり、少し話は逸れますが、動物がごみを漁らないようにするために、倉庫を設置し、その中に家庭ごみを入れるということもできると思います。

ごみ箱の設置数を増やし、ごみを入れる倉庫を江戸川区内に設置することはできますか。

中学生議員（7人目）

私が学校に向かって行く途中の道端でたばこの吸い殻が落ちているのを見かけます。

また、塾に行く時も、途中の道で吸い殻やお菓子の袋等のごみを見かけます。このように、ごみを道に捨てる人がいることを悲しく思います。どうしたらポイ捨てが少なくなるでしょうか。

江戸川区には、「江戸川区歩行喫煙及びポイ捨ての防止等に関する条例」があります。この条例は、歩行喫煙及び、吸い殻、空き缶等のポイ捨てを防止するためのものです。私はこのポイ捨てに関する条例のことを、この議会のために調べた時に、初めて目にしました。若い人、それだけでなく、江戸川区に住んでいる人全員に、もっとこの条例を知ってもらいたいです。

また、ごみを道で見かける中で、外にはごみ箱が少ないなと感じました。ごみ箱は中身を回収するのにコストがかかると思うし、他にもテロ対策や防犯の理由もあり、設置するのは大変だと思いますが、ポイ捨てを防ぐために、ごみ箱をもっと設置するのはいかがでしょうか。

か。例えば、子どものお菓子のごみが多い公園や、小岩駅前のフラワーロードのような、駅前の商店街等に設置してほしいです。

中学生議員（8人目）

私は江戸川区で暮らしていて、ごみについて気になることが2つあります。

1つ目は、公園でのポイ捨てです。私はボランティア部に所属していたため、部活動の一環で、学校の近くにある公園のごみ拾いをしていたのですが、その時に、植え込みに必ずと言っていいほど、お菓子のごみ等があるのが気になりました。

ごみ箱を設置するのは、防犯上の理由や、設置することでかかる費用の問題で、難しいと聞いたことがあります。老若男女の多く集まる公園には、安全に気持ち良く過ごすために、ごみ箱を設置してほしいと思っています。

また、ごみ箱の設置が困難な場合には、ポイ捨て防止やごみ拾い活動を増やすために、江戸川区としてどのようなことをしているのか教えていただきたいです。

2つ目は、自動販売機の横にあるリサイクルボックスについてです。私の家の近くにある自動販売機のリサイクルボックスは、新型の投入口が見えづらくして、異物混入を防止するというものなのですが、旧型のように、中身が見えないため、中身がいっぱいでも気づかずに、更に容器を入れようとする人が多いです。そして結果として、リサイクルボックスの周りに落ちたり、リサイクルボックスの横に置いたりする人がいたりします。そこで、中身の量がわかれば、捨てるのは別のリサイクルボックスにしようとか、家に持ち帰ろうと考える人も多いのではないかと思ったので、ぜひ中身の量を視認できるようなリサイクルボックスを増やしてください。

江戸川区をポイ捨ての少ないまちにするために、ごみ箱の設置やごみ拾いボランティアの推進をお願いします。

<答弁>

斉藤区長

それではお答えをしてみたいです。公園のお話でございました。

小岩地区には大規模な公園がない。それが数字上もそのように表れています。私自身も小岩地区、公園が少ないなというふうに思っています。そういった課題を私自身も強く持っているところなのですが、ご質問の中でも言ってくださったように、江戸川区全域で見れば、公園面積は23区で一番広いです。私達できれば区民一人当たり10平米というのを目標にしてるんですけどもこれ50年前に立てた目標です。50年前の当時はですね、一人当たり

0.9 平米しかなかったんですが、今は 5.3 平米になりました。これ東京都の統計なんかで見れば 10 超えてるんですが、葛西の海浜公園、海の部分も入っているので、陸域だけで見ると 5.3 平米。つまりですね、今の公園の倍ほしい、そういうふうに思っています。それが率直な気持ちです。

ただですね、公園を整備する土地がというお話をいただいたんですが、まさにその通りでございまして、葛西地区はですね、職員が公園の土地売ってくれませんかってチラシをまいています。小岩の地区の皆さんのところに。それでもですね、なかなか公園用地というのは手に入らないのが現状でございまして、できるだけ、そういった適した土地があれば、江戸川区としても取得をして、公園にしていきたいなというふうに思っています。

今、学校がですね、統合というの、一方では行われてるんですけども、例えばその空いた学校の使い道は様々なご意見があるんですが、私自身はぜひ公園にしたいなというふうに思っています。

とても広い土地でありますので、その分公園面積も増えていくということですし、学校の跡地ということであれば何よりもですね、将来また、お子さんが増えたときにまた学校を建たいという強い思いもありますので、そのためには公園というような形で残しておくというのが一番、ふさわしいのかな、そういうふうにも思っているところでございます。どちらにしても、今お話があったとおり、公園を増やしていくことは、区の方針としてもしっかりと行っていきたいというふうに思っていますし、江戸川区のイメージを区外の方に聞くとですね、やはり 3 つありまして、下町、子育て、公園、この 3 つなんですね。ということは公園は江戸川区のなんていうんですかね、看板でもありますので、そういったところを更に充実をさせていきたいなというふうに思っております。

そして、その時にバリアフリーの環境もしっかり整えて、お子さんから高齢者の皆さんまで、誰もが利用できるような、そういった公園を目指していきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

齊藤区長

続きまして、屋内一体型で様々な方が交流できる施設をということでもあります。

やはり今も少し触れさせていただいたんですが、もう多くの方が利用するには、やはり屋内一体型というのはこれ間違いなくいいと思います。

夏は日差しを遮ったり、雨もかわすことができますし、ということで、できれば雨でも利用できる公園ってつくればいいなというふうに思ってます。

公園って晴れの日しか使えない、一般的には昼間しか使えないので、土地の有効利用としてはあまりよくないかなという気もするんですね。であるならば雨でも使える公園っていう発想はやっぱり出てくるし、そうするとなにがあるかという、やはり屋根がないといけないなということでもあります。

これからですねリニューアルする小岩公園、ここがですね、やはり皆さんの世代や障害の有無を超えて交流できる場となるように、整備をしていきたいと思うんですけども、ただですね、なかなか屋内一体型という形までの、今この姿というのはできていません。

その今、姿ができてるのはこれちょっと小岩から離れる葛西の方になってしまうんですけども、ここがですね、総合レクリエーション公園があるんですけども、その一部をですね、今お話のあった、屋内一体型の施設にしていきたい、そういうような構想を今、持っている、考えているところでもございます。

これはですね、葛西だけではなくて、ぜひ小岩も含めた、いろんな地域に広げていくことができたらというふうに思っておりますのでよろしく申し上げます。

齊藤区長

続きまして、屋内広場ということで、施設の中が屋内広場のような形になっていればそこで皆さんが集えるんじゃないかというお話だと思います。

これ先ほどの、施設にかかわらず、雨の日でも使えるという面では、とても有効なということですかね、すばらしい発想だと思うんですが、問題はこれもやはり施設の広さということになってまいります。

今区内でですね、コミュニティ会館等の施設が全部で 33 あります。中にはとても広い、廊下なんか車通れるぐらい広いところもあります今は。ただ、この全てが広場みたいに使えるかというところでもないのも現状であります。できればそういう屋内広場のような広いスペースがあれば、何よりもバリアフリーにもなりますし、多くの方が交流できるというふうには思っております。そこに段差を解消したり、多機能トイレを付けたりとか、そういうことも屋内ならやりやすい部分があります。

ですので、今の私からの答弁となると、できるところをしっかりとやっていきますということで、まだ全 33 の施設ですか、それ以外のところも含めてやりますということまでいけないのは大変申し訳ないんですけども、これからご提案いただいたような内容をしっかりと私達も意識をしていきたいというふうに思いますし、今私がこういうふうにお話をしていますけれども、私自身が、或いは職員が気づかない点もいっぱいあると思います。

そういったところはぜひこれからもですね、色々な形で教えていただければありがたいなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

齊藤区長

続きまして、自転車についてということで、シェアサイクル。

江戸川区は自転車が大変多い自治体です。その理由の一つとして、平坦だから、土地が割と、割とじゃなく、平坦ですね。坂があるとすると川を渡るようなところとか橋のところと

か、そういったところに限られるのではないかと考えています。

自治体によっては坂道がとても多いところ、そういうところはやはり自転車乗る方が少ないということなんです。江戸川区の場合は地形的なものもございまして、また環境にもやさしい乗り物ということで、自転車というのは区としても推奨していきたい。そういった乗り物の一つだというふうに思っております。

駐輪場の中です。今、区内 11 駅の駐輪場で電動アシスト自転車等の貸し出しをしています。

また、定期利用もできます。1ヶ月とか3ヶ月とか、もちろん1日単位の利用もできますので、仕事やレジャー、色々な使われ方がしております。

昨年度でいくと、31万回使っていただくことができました。これは行政でやってる部分なんです。民間主導でやっていただいているのがご質問にもありました。コンビニとか、様々な施設のところに置いてある自転車です。こちらの方は区内で138ヶ所ステーションがあります。どこのステーションでも貸し出し返却ができるという形になっておりますけれども、これは江戸川区外でも大丈夫だということなんです。実績で言えば20万回ということなんです。

ただ、お話の通りまだまだ知らない方がたくさんおいでになる。そうするともっともこの使われる回数が増えてくるし、それによって、多くの方が利便性を感じていただくことができるんじゃないかというふうに思っています。

先ほどお話しした通り、環境にやさしい乗り物でもありますので、このSDGsにも繋がってくると思いますので、これ私達のPRの問題かなとも思いますので、しっかりと発信をしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

齊藤区長

駐輪場についてのご質問です。まだありますね。違法駐輪が。

今の江戸川区には全部で12の駅があります。12の駅があるんですけども、そこで9000台以上、放置されていた。これは平成13年です。平成13年ですから今から20何年前なんですけれども、9000台以上が放置されていたのが、今はですねその98.8%を削減することができています。

それはですね、何を行ってきたかという、駐輪場の台数を増やしてきました。先ほどお話しした平成13年頃ですね。3万8000台分だったんですけども、江戸川区、今、5万1000台に増やしています。なにを行ったか、これも土地がないものですから、地下に駐輪場をつくったということです。特に葛西の地下の駐輪場というのは9400台地下に停められるようになっていまして、これ日本で一番の規模でございまして。NHKのドキュメンタリー番組でやったり、それだけではなくて、フランスやイギリスとか海外メディアにも取り上げられている駐輪場です。そういった形で、地上が無理ならば、地下でということ頑張ってきて

98.8%減らしたんですけども、ただ 100 になってません。ですので目につく部分というのがあるんだと思ってますし、それを何とか 100 にしたい、近づけていきたいという思いもございます。

やはりですね、先ほど建物をつくった時に駐輪場をつくるというようなご提案もありましたし、お店にですね、買い物で行ったお店に駐輪場をつくってくださいというようなお願いも、私達しているところでございます。

あと区の駐輪場も 1 回お金払うのがっていうような抵抗感もあると思うので、例えば 2 時間までだったら無料にしますと。そういうような取り組みなんかも、色々こう試みをしているところであります。建物を建てる時というお話がありましたけれども、今、J R の小岩の駅前再開発やっているのをご存知だと思います。

そこではですね、これ令和 7 年度末ですからちょっと先の話になりますけれども、約 3000 台の駐輪場を整備する予定になっています。3000 台がプラスされるということですね、今から。ですからそういったような駐輪場を増やすという努力もこれから行っていきますし、また駐輪のルール、マナーというのも大事だと思うので、そういった部分も引き続き、しっかり P R を行って、安全安心なまちをつくっていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

齊藤区長

続きまして、ポイ捨てについてのご質問をいただきました。

23 区で一番ポイ捨てがっていう、はい。反省します。ホームページとかを見るとですね、そう出てます。

ただその調査、ある民間の調査なんですけど、9 年前の数字でですね、それから我々一生懸命頑張って、ぜひ今やってくれないかなという思いも少しあります。

ただですね、まだポイ捨てがあるというようなお話もありましたし、先ほどから多くの皆さんもお話をされているので、ここはしっかり取り組まなきゃいけない課題の部分かなというふうに思っております。何とか現状を変えていきたいということで、先ほども触れさせていただいたような P R も頑張っております。その一つの考え方の中に、倉庫をつくった方がいいんじゃないか。カラスが入ってこれないっていうことですよ。それもおっしゃる通りだと思います。ただ、これなかなかこの建物を置くところをどこにしようかという課題もあるのも事実です。もしご協力いただけたらいいところがあれば、それをつくっていききたいなというふうに思ってます。

実は今ごみの収集で私達もですね、色々悩んでいるのが、建物じゃなくて集積所にごみを置いていますけれども、その集積所がなかなかつかないです。

集積所、どこかやっぱり自宅の、どなたかの家の近く、或いはお店の近くになるものから「うちの家の前はやめてください」とか「店舗の前は止めてください」ということで、

もうそういう地区は個人個人で 1 軒ずつ取りに来てくださいというようなお宅も増えてきているのが現状です。

ただ、やはり行政効率とか考えますと、集積所を何とかつくらせていただけないかということで、何とか私達もお願いをしているんですけども、そういった中で更に、そこに建屋があればもっといいということはおっしゃる通りだと思います。

ただその部分につきましては、先ほどお話した通り、その場所の皆さんとのお話し合いが必要になるので、これから色々な角度から研究させていただけないかなというふうに思っております。

ごみ箱のお話もあったんですけども、以前、江戸川区の公園にはごみ箱を置いてました。

ただですね、そこに家庭ごみをどんどん捨てて、ごみは出す曜日が決まってるものですかから、そうすると、公園のごみ箱であれば、毎日出せちゃう、夜間でもということで、それでごみが増えるようなことがありました。

ただ、やっぱりこれはルールとかマナーの部分だと思いますので、そういったところも訴えていけば、そういった問題も解消してくるのかもしれない。

今はですね、自分で出したごみは自分で持ち帰ってくださいというような形の、私達お願いをしておるところでございましてけれども、ご質問いただきましたので色々な角度から検討していきたいと思っています。

齊藤区長

次に、ポイ捨て条例についてのご質問いただきました。

もっともっと知ってもらった方がいいんじゃないかということで、先ほどポスターを見ていただきましたけど、もう 1 回見せちゃおうかな。その中にポイ捨ても入ってるんですよ。ポイ捨ては違法ですということで、こういった今月からなんですけれども、4000 枚つくって色々貼っていくようにしたいと思っています。

条例違反であるということですね、私達も何とか伝えていきたい。それでバスの車内放送とか、駅の放送で、「ポイ捨ては条例違反です」というアナウンスを流しています。

今のポスターもそうなんですけれども、様々な表現を使いながら、媒体を使いながら、取り組んできておりますけれども、まだまだこれから頑張っていかなきゃいけない分野だというふうに思っております。

先ほどちょっとごみ箱のお話もしたんですけども、「530 (ごみゼロ) 運動」のお話をさせていただきますと思います。

およそ 50 年前なんですけれども、ある自治体が観光地でごみ箱からごみが溢れて、清掃にも取り組みましたが、ごみはなくなりませんでした。

そこで、「自分のごみは自分で持ち帰りましょう」といった言葉を合言葉に啓発をはじめ、これが国民的な運動として全国に広がりました。

江戸川区も同じ50年前には、ごみをはじめ、様々な公害に対して、区民の皆さんと区が力を合わせて「自分たちのまちは自分たちで綺麗にしていこう」と。そこから「環境をよくする運動」が生まれまして、今に続いているということでございます。どちらの運動も自分で出したごみはそれぞれ責任を持って持ち帰ることをお知らせして、環境問題を乗り越えてきた歩みは共通しています。

ただ、ごみ箱が全くなしでいいか、というようなこともあると思いますので、今、ご質問をいただきましたので、ぜひ、私達が気がつかないいたら部分もありますので、これからもいろんな角度から教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

齊藤区長

続きまして、ごみ捨てについてですね。

まず、江戸川区でどういう取り組みをしているかということでございます。先ほどちょっと何回か同じことになってしまうんですけど、ポスターをつくったり、バスや電車での放送をしております。

また区のホームページや広報えどがわ等でも、PRを今までも行っているんですけども、これからも行っていきたいと思っていますし、あとは区民の皆さんと一体となった様々な運動、先ほどから「環境をよくする運動」というお話をしていますけれども、皆さんと一緒に自分事にしていただくということが、何よりも大切だと思っていますので、そういったところに今力を入れているところでございます。

そして、清掃活動をやってくださっている地域の町会・自治会、ボランティアの皆さんにはですね、私達からごみ袋だとか、軍手だとか、トングですね、ちりとり、ほうき等をお渡ししています。あとはですね、私達が今、心がけているのが、個々で清掃活動をしてくださっている様々な団体企業があるんですけども、それをこう、結びついていただいて、どんどんその輪を広げられないかなというふうにも思っています。先ほど、自分事にしていただきたいというお話をしましたけれども、ぜひそういった団体の皆様も一体になって、1足す1は2じゃなくて、これが3にも4にもなるように、どんどん広がるような、横の繋がりの発展も期待をしているところでございますし、そういったことも頑張っていきたいなというふうに思っています。

そして、自動販売機の横にあるリサイクルボックス、中の量が見えるボックスをつくれなにかというご質問がございました。これ実は区というよりも、飲料メーカーがつくってあそこに設置をしてくれているんですけども、全国清涼飲料連合会というのがあるんですが、そこで消費者意識調査を行ったところ、4割を超える人が、そのリサイクルボックスをごみ箱と誤って認識をしているということがわかりました。

また今はですね、新型のリサイクルボックス、今、4割のリサイクルボックスが旧型ですね、新型の下から入れるやつにつきまして、今実証実験を行っているところなんですけれど

も、やはり今の新型の方が異物の混入は減少しているということでもあります。異物の混入が減少するという事はイコール、そこにスペースが生まれて、多くのリサイクルできるものを入れるということに繋がってくるので、私達もこれは、大変良いごみ箱ではないかというふうに思っております。

そういった中で、中身が見える透明なものというような意見も意識調査の中で、やはり指摘があったそうです。中身が見えるということは、今、皆さんの家庭から出していただくごみ袋も半透明になっていると思います。

やはりですね、中身が見えるということは適正に分別された状態で、排出されるようになりまして、分別意識の向上に繋がっていますので、今回ご提案のありました、中身が見えるリサイクルボックスにつきましては、飲料メーカーに私達から話をしてみたいというふうに思っております。

そしてできればまずは自分達が始めなきゃいけないので、区役所内のごみ箱でも実証実験、やっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。